

風のくら 古民家再生 住宅展示場

上、掘りごたつのある安らぎの和の空間。アンティークな趣のステンダグラス調の建具は職人によるオリジナル製作。下、昔の日本家庭にあった通り上間を玄関ホール兼ウイングに再生。テラコッタタイルが温もりを添え、ゲストとの交流や趣味に使えるホームカフェのような空間。

百年の記憶を尊重し、
新たな暮らしを紡ぐ技

素材を生かす設計力に加えて、それを実現できるベテラン職人集団の存在も同社の強みだ。古民家の雰囲気に合わせて、建具のオリジナル製作も行う。木山さんが作成したデザインをもとに、現場でミリ単位の調整を加えながらつくっていく。空間に調和するように仕上げるのだ。既存の欄間や建具を再利用することで、古民家らしいデザインとスト調整を両立させるという工夫もしています。古民家が持つ寒さや湿気の悩みには、現代の技術で対応。断熱材や高性能サッシを用いつつ、自然素材が持つ調湿効果も取り入れ、気密と断熱のバランスに配慮。1年を通じて快適に過ごせる環境を実現しています。



屋根は断熱性のある古い茅葺きをそのまま残し、上からガルバリウム鋼板で覆っている

古民家再生 住宅展示場

風のくら
kaze no KURA

時を超えて価値をつなぐ 古民家で紡ぐ豊かな時間

築100年を超える古民家再生モデル住宅「風のくら」
先人の知恵と現代の快適性を融合させ、古民家の価値を未来へとつなぐ
「ハウスランド社」の古民家再生の哲学を聞いてみました。

日本の原風景を下絵に
新たな暮らしの舞台を描く

創業1957年のハウスランド社が得意とするのは、固い古い古民家や、増改築が繰り返されてきた住まいの再生、リノベーションだ。専門的な知識と技術が不可欠な難しい仕事を引き受け、設計を担当するのは、職人建築士の糸山葵さん。建物の声に耳を澄ますように、柱や梁をつひら丁寧に調査し、間取りを復元することから再生のプロセスが始まる。

「私たちが大切にしているのは、元の建物の面影を残して再生させること。100年近くにわたって持ちこたえてきた建物には、それなりの理由があります。広さを確保するために、むやみに柱を抜いたり壁を壊したりすると、頑丈さが損なわれてしまうおそれもあるんです。先人が築いた家の骨格を最大限に尊重しながら、いかに魅力的な間取りを考えるかが建築士の腕のめどころ。柱が多い昔ながらの建物では、それを生かした収納をつくるなど、現代の暮らしに合った設を提案するようにしています。」